

男里川定例探鳥会 Field Guide

泉南市と阪南市の境界を流れる男里川は、和歌山県と大阪府との県境を源に発する山中川・菟砥川（うどがわ）・金熊寺川（きんゆうじがわ）の三川が阪南市の鳥取中付近で合流して大阪湾に至る延長約2.5km、の2級河川です。河口の沖合いには関西国際空港を眺めることができ、淡路島や天気の良い日には明石海峡大橋も肉眼で見ることができます。

河口付近は大阪湾に残された数少ない自然の干潟が残されており、干潟には多くの底生動物（ベントス）が生息しており、それらをエサとするシギやチドリ類、カモ類、カモメ類などが多く飛来し、渡り鳥の集団渡来地としても重要な場所で、四季を通して多くの生き物たちと出会うことができます。

このように、この場所が非常に重要であることから、平成13年12月に環境省が発表した「日本の重要湿地500」に選定されていますし、平成17年11月には河口から上流の府道堺阪南線（旧国道26号線）の男里川橋の間の約25haが大阪府の鳥獣保護区に指定されています。

探鳥会コース

探鳥会は毎月第四土曜日、9時30分に南海電車南海線樽井駅に集合し男里川に出て、右岸河口部をスタートに右岸を上流に向かって歩き、菟砥橋を渡り左岸を河口部に向かい、正午過ぎに河口付近で終了します。菟砥橋のたもとにはコンビニエンスストアがあり、弁当の購入やトイレが利用できます。

男里川定例探鳥会探鳥コース

